令和７年度　高田保育園自己評価

令和　８年　４月　３０日

社会福祉法人高田福祉事業協会　高田保育園

１．本園の教育保育目標

「　ほとけの子を伸び伸びと育てる　」

義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、０歳児から小学校就学前までの園児の成長を見据え、教育並び保育を一体的に行うことを目標とする。

１．　命の尊さと生きる喜びを感じとる

２．　身近な自然や社会の恵みに感謝する

３．　みんなと仲良くし、希望を持って生活する

２．本年度重点的に取り組む目標・計画

【一人ひとり違う感じる心、自己表現のきっかけを応援しよう】

１．　運営の充実

・定員の調整　（地域のニーズに最大限応えつつ定員 120%を超えないようにする）

・保護者アンケートから要望の反映（ハード面での改善）

２．　保育教育の充実と子育て支援活動・病後児保育所との連携

・０歳児から卒園までの一貫した教育

・障がい児保育（ともに成長し合える環境づくり）

・子育て支援センター、病後児保育所の運営

３．目標項目に対する保育園自己評価及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
１	・地域のニーズに応える ・ハード面の修繕と保護者要望の反映	A	・在園児弟妹を優先に年度途中の入所を調整し、スムーズな職場復帰を応援した。 ・駐車場（園舎西側・旧園舎跡）の舗装、雨漏り修繕工事を行った。
２	・０歳児からの学びの連続性と一貫性の確保	A	・０歳児からのリトミックの実践により、乳幼児の感覚的成長を促した。 ・森林教室を通じて自然体験を実践。 ・支援センター「のんの」のイベントを充実させる。

評価（A…十分に成果があった　B…成果があった　C…少し成果があった　D…成果がなかった）

４．総合的な評価結果理由

評価	理　由
A	・入所希望が多いということは、日頃の職員の努力が評価されているのだと思う。このことは全てにおいて当てはまり、課題や取り組みに対して、子ども達にとって、保護者にとってという視点で考え作り上げていくことに、職員自身の成長もうかがえる。 ・保護者と子育てを共有しお互いに高め合おうとする姿勢が、改善につながっている。

評価（A…十分に成果があった　B…成果があった　C…少し成果があった　D…成果がなかった）

５．評価委員会

令和６年度　高田保育園評価委員会　　令和７年４月２１日　１９時～　２Ｆ遊戯室にて

出席者　（評価委員）

佐藤　弘道　様　　学校法人専修学園　高田幼稚園園長

品川久美子　様　　高田福祉事業協会ケアハウス副施設長　茶道講師

長野　幸子　様　　有限会社幸プランニング代表取締役社長

勝井　由紀　様　　高田短期大学非常勤講師　子育て支援リトミック教室講師

加藤　洋平　様　　令和７年度高田保育園保護者会会長

日置　竜二　様　　令和７年度高田保育園保護者会副会長

（高田保育園職員）

草深ふじ美　　園長

河俣　　聡　　副園長

永田　智里　　主幹教諭

笠原　絵里　　主幹教諭

①自己紹介

②高田保育園近況報告　　保育園のしおり、パンフレット

③事業計画について　　令和７年度事業報告・令和８年度事業計画

（園長から）反省と課題

＝運営の充実について＝

令和７年度は、３４名の新入園児を迎え、全園児１９９名でスタートした。途中入園枠は在園児保護者の育休復帰に伴う弟妹の受け入れでほぼ埋まり、最終全園児数２０８名で終えた。定員の 120%を超越しないように、入園児を制限する必要があるため、新規入園希望の受け入れ人数を調整し途中入園の対応を行った。

毎年行う保護者アンケートの結果を受け、安全確保を最優先に考慮したハード面での改善について検討し、優先順位を考えて修繕を実行した。駐車場の砂埃や飛び石、でこぼこについては、現在の園舎設立以前からの懸念事項であったので優先的に舗装工事を実施した。この事によって特に悪天候時の不快さが緩和し、雑草や猫の糞問題が解消されたことは職員にとっても負担の軽減につながった。

園舎内外の修繕については、築１３年目となり不具合も複数個所から出始めている。中でも、長期にわたり修繕依頼をかけ施行しているにも関わらず改善されない雨漏りに悩まされていたことから、専門業者の調査結果をもとに大々的に外壁張替え工事を行った。厨房の床一部修繕他、業者依頼が必要な個所については速やかに行い、先々の大きな出費につながらないような手立てを講じた。

＝保育・教育・支援の充実＝

「自己表現のきっかけを応援しよう」をテーマに、集うもの同士がお互いを高め合う場所でありたいという思いから目標を掲げた。人生の基礎を培う乳幼児期を生きる子どもと、その大切さがわかる大人が一緒に楽しいことを見つけに行く。その過程で生まれる子どもの成長に気づき育むことができる保育者であり教育者であることを職員一人一人が自覚し、子どもの成長環境のベースを担う意識を持つことを再確認した。中でも、森林教育で自然に触れながら「宝物」を見つけに行く取り組みは、とても有意義なものであった。

就学に向けた支援では、特に医療的ケアが必要な子についての引継ぎは、教育委員会学校関係者に医師や看護師を交えたカンファレンスを行い、子どもとその家族への途切れない支援について、様々な角度から対策を考えた。

＝令和８年度は＝

「みんなが輝く高田保育園」を９年度までの２年間のテーマに、引き続き自己肯定感を高める保育と教育の実践に取り組んでいく。

④令和７年度職員自己評価結果について
⑤令和７年度施設関係者評価結果（アンケート）について
⑥令和７年度職員自己評価・施設関係者報告書について（ホームページ公表）
（副園長から）
資料を見ながら説明

⑦評価委員評価決定

Ａ　　十分達成できている

Ｂ　　おおむね達成できている
Ｃ　　取り組んでいるが成果が不十分である
Ｄ　　取り組み自体が不十分である

※評価委員の皆様におかれましてはお忙しい中にもかかわらず、足をお運びいただき、貴重なご意見もたくさん頂戴いたしましたこと、心より感謝申し上げます。